

CSR方針

TOYO TIREのサステナビリティ推進

TOYO TIREは、2014年にCSR活動の基本方針を策定するとともに、重点的に取り組むべき7つの課題（重点テーマ）を特定し、各テーマの達成イメージである「2020年のあるべき姿」の実現に向けた取り組みを行ってきました。その後の事業環境の加速度的変化や、新たな社会的課題が生じてきたことを受け、2017年に当社グループが将来にわたって持続可能な成長（サステナビリティ）を目指すために優先的に取り組むべき課題を4つ抽出しました。2018年からはこの4つの優先課題に対して、グループ全

社で対応するワーキンググループ（サステナビリティ推進WG）を課題ごとに設置し、組織横断的な検討を進めています。

サステナビリティ推進WGの1つであるSDGsWGにおいて、当社グループの持続可能な成長のための目標（SDGs）について議論を重ねた結果、14のゴールを策定しました（詳細はP9-10参照）。この「TOYO TIREのSDGs」の達成は「2020年のあるべき姿」から続く「2030年のあるべき姿」の実現でもあります。

2014年

基本方針を策定

TOYO TIREは、一人ひとりが社会との「つながり」を意識して行動し、人と社会に求められる企業であり続けます。

7つの課題（重点テーマ）と達成イメージ（2020年のあるべき姿）を特定

重点テーマ	2020年のあるべき姿
1.製品・サービスの信頼と革新	高い品質と安全性をベースに、環境にやさしい製品・サービスを提供している
2.地球環境への貢献	グループ全体で環境経営を推進している
3.人権と多様性の尊重	国際的な人権意識のもと、多様な人材が活躍している
4.取引先との協働	サプライチェーン全体でCSRに取り組んでいる
5.地域社会との共生	ステークホルダーの声に耳を傾けながら、地域社会の発展に貢献している
6.安全で健康的な職場づくり	安全を最優先に、安心して働ける職場づくりに取り組んでいる
7.ガバナンス・コンプライアンスの強化	常に経営の透明性向上を図りながら、誠実な事業活動を実践している

2014年~2017年 事業環境の加速度的変化→新たな社会的課題の顕在化

2017年

TOYO TIREのサステナビリティに必要な優先課題を抽出

- 気候変動への対応
- 人権・労働、腐敗防止への対応
- 持続可能な調達責任への対応
- TOYO TIREのSDGs（2030年のあるべき姿）の策定および達成

2018年

サステナビリティ推進WGの設置

2019年

TOYO TIREのSDGs（2030年のあるべき姿）を策定

TOYO TIREのステークホルダーエンゲージメント

当社グループは、バリューチェーンの各段階において直接的にあるいは間接的に影響が大きいステークホルダーを特定し、ステークホルダーの皆さまの評価や意思決定に対する影響を考慮して、優先課題の検討を行っています。また、ステークホルダーの皆さまとのエンゲージメントの

機会を通じて、当社グループに関する情報を正確に、明瞭に発信することで説明責任を果たすよう努力しています。さらに製品、サービスを提供するだけではなく、仕事一つひとつを通じて、満足を超える感動をお客さま（お取引先）や顧客（消費者）にお届けできているかを確認しています。

